

# 地方創生推進交付金事業 評価・検証シート 【令和5年度実施分】

≪内部評価≫（100点満点） 個別項目についてそれぞれ評価しています。

	評価項目	A (13点)	B (9点)	C (5点)	D (1点)
有効性 (26点)	KPI達成への貢献度	最も効果的である	概ね効果的である	やや効果的ではない	効果を見込めない
	総合戦略への貢献度				

	評価項目	A (14点)	B (10点)	C (6点)	D (1点)
有効性 (14点)	期待した効果の達成度	最も有効的である	概ね有効的である	やや有効的ではない	有効的ではない

	評価項目	A (10点)	B (6点)	C (3点)	D (1点)
効率性 (30点)	コスト効率	最も効率的である	概ね効率的である	やや効率的ではない	効率的ではない
	手段の最適性	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
	受益者負担は適切か	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な技術はあるか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な財源の見通し	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない

≪総合評価≫ 個別項目の合計点により、総合評価をしています。

	得点率	得点	目安となる考え方
A	80%以上	80点以上	計画通りの実施が適当
B	79~50%	79点~50点	一部見直しで足りる程度
C	49~20%	49点~20点	見直すべき項目がある
D	19%以下	19点以下	事業の統合、廃止等の検討が必要

令和5年度事業額：8,252,900円（総事業費21,044,000円）

交付金充当額（補助率1/2）：4,089,000円（総交付額：10,509,860円）

評価対象期間：令和5年度（事業実施期間：令和4年度～令和6年度）

### ＜事業の概要＞

・いつまでも住み続けたいと思えるには、安心して暮らすことができるまちづくりを行うことが必要である。地方創生が目指すものの1つである、「安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」を実現し、市民生活の安全や安心を維持することができるよう、市民の生命を守り、誰一人取り残すことなくいつまでも安心して暮らすことができるまちを目指す。そのため、市民の健康増進を図ることで、いつまでも健康的に暮らすことができるとともに、環境面における負荷を減らすことで持続可能な社会を実現する。

#### 【健康増進】

「ウォーキング」に焦点を当て、官民共同で組織的に取り組むことで、継続的・組織的な取組へ構造改革し、地域の健康習慣の定着を目指す。

#### 【環境負荷の低減】

食品ロスの削減により、まちの持続可能性を高めるとともに、新型コロナウイルス感染予防措置などにより疲弊する地域経済を、人口構造の変化や新しい生活様式に対応していく事により活性化することで、暮らしやすい地域づくりをIT活用により目指す。

### ＜事業の進捗状況＞※主な事業を記載



#### ＜これってステップ?! コンテスト＞ 所管：健康推進課

誰もが気軽に楽しく体を動かすアイデアを募集し、コンテストを開催した。市民等からの多くの応募があり、運動に関する専門家等の審査の結果、3作品の大賞をはじめ、運動が得意な人も、体を動かすことが苦手な人も楽しく体を動かし、気づいたら健康になっている素晴らしいアイデアを披露していただいた。また、ウォーキングマップ作成にあたり、多くの市民から楽しくウォーキングできるスポットなどの情報を得ることができた。



#### ＜これってステップ?! フェスタ＞ 所管：健康推進課

これってステップ?! コンテストで応募があった、楽しく体を動かし気づいたら健康になっているアイデアを、多くの市民に知っていただく手法を検証するために、社会実験としてフェスタを開催した。えきまえVIPと合同実施であったため、子どもから高齢者まで、多くの市民に盆踊りや体操などの発表や体験ブースにて楽しく体を動かしていただけた。



《ウォーキングマップ作成》 所管：健康推進課

各小学校区で、楽しく安全に歩けるウォーキングコースを設定し、ウォーキングマップとして全戸配布することを令和6年度に実施予定としている。その準備として、多くの市民の皆さまから、楽しくウォーキングするための情報をいただいた。「ヤギがいる」「桜が綺麗」など多くいただいた情報をウォーキングコースに活かし、マップ作りの準備を進めた。



《食品ロス削減マッチングサービス「タベスケ」運用》 所管：生活環境課

食品ロス削減の啓発の一環として、規格外品、消費（賞味）期限が近い食品などを安価で出品、購入予約できる専用ウェブサイト「もったいない津島 by タベスケ」を運用した。令和6年2月にウェブサービスに加え、アプリでの利用が可能となった。

その他事業について

	事業名	概要
1	これってステップ?! フェスタ準備ワークショップ (9/3、10/8)	これってステップ?! フェスタにおいて、いかに楽しく体を動かすアイデアを多くの市民に浸透させるか、市民ボランティアと一緒に検討した。
2	ふりかえりワークショップ (12/3)	「楽しく体を動かすアイデア」「ウォーキング」について、コンテストやフェスタの成果を確認し、今後の市内展開について、市民ボランティアと一緒に検討した。

《KPI の状況》

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況に関する評価
		2021	2022	2023	2024		
指標 1	「あいち健康プラス」アプリ登録者増加数 (人)	221	100	200	300	600	事業実施2年目は中間目標値を達成しているが、1年目の実績値を下回った。コンテストや社会実験の効果が十分ではなかったと考える。
		実績値	390	200			
指標 2	食品ロス削減量 (kg)	0	400	5,000	6,000	11,400	目標値を大幅に下回る結果となったが、食品ロス問題の啓発に役立った。
		実績値	5	21			

《成果》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

「健康増進」については、楽しく体を動かすことが運動習慣につながったり、家族や友人との交流を通じた地域での健康づくりにつなげるために、運動が得意な方向けのウォーキングマップ作成のための情報収集、運動が苦手な方向けの楽しく体を動かすアイデアの発掘及び普及について活動を行った。スマートフォンアプリ「あいち健康プラス」の登録の増加者は昨年と比較して減っているが、楽しく体を動かすことの大切さや健康づくりの多様化を浸透させることができたと考える。

「環境負荷の軽減」については、「タベスケ」の周知活動を通じ、市内の飲食・食料品店や市民に向け、食品ロス削減への意識を醸成・啓発することができた。

《事業の課題》※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

「健康増進」については、コンテストで集まった楽しく体を動かすアイデアやウォーキングマップをいかに市民に浸透させることができるか、社会実験を通して得た知見を、市内の小中学校区単位という規模でのイベントに活かすため、小中学校区の特性に合わせて実施することが今後の課題である。

「環境負荷の軽減」については、協力店舗数及び出品数がかなり少ないため、店舗にもっと利用していただけるような情報提供を行っていく。

《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40点)	KPI達成への貢献度	C	多くの市民に、楽しく体を動かすことが健康につながることを知っていただき、健康な地域づくりを進めることで、総合戦略やKPIに貢献している。食品ロス全体に占める販売しうる商品の割合は数%程度であり、直接的な成果は得にくいがPR効果による食品ロス低減効果はあると考えている。	B
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30点)	コスト効率	B	社会実験による検証を活かし、市内全域に健康づくりを浸透させる取組までは達していない。「タベスケ」は、商品登録手続きの手間など出品による不安の解消が課題である。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	B	「タベスケ」は複数自治体が参加でき、料金は、自治体規模により決まる。システム変更は市単独ではできない。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	B		

《今後の展開》

「健康増進」については歩くことや楽しく体を動かすことが、健康で幸せを実感できる「健幸」に繋がることを、多くの方に知っていただき、持続的な活動へつなぐことが目標となる。市民や地域、事業所を巻き込み、持続的な活動へ移行させ、「いつまでも健康で暮らす都市、つしま」を目指す。

「環境負荷の軽減」については、10月の食品ロス啓発月間などにあわせ、食品廃棄物量の多い飲食店・食料品店を中心に「タベスケ」の利用を推奨していく。

担当部局： 健康福祉部 / 担当課： 健康推進課  
市民生活部 生活環境課

# 官民連携による津島天王通り・ウォーカーブルストリートプロジェクト

令和5年度事業額：16,038,000円（総事業費73,315,000円）

交付金充当額（補助率1/2）：8,019,000円（総交付額：36,657,000円）

評価対象期間：令和5年度（事業実施期間：令和5年度～令和7年度）

## 《事業の概要》

本市は、全国の天王信仰の総本社で重要文化財にも指定されている津島神社があり、そこから名鉄津島駅は約1kmの「天王通り」で結ばれている。お寺等の歴史的資源に溢れており、現在も「尾張津島天王祭」を始めとしたイベント等では、市内外から年間20万人以上の人々が訪れ、今も昔も変わらず、天王通り周辺は多くの人で賑わう。しかしながら、日常における天王通りは、人口減少や高齢化の進行、後継者不足などにより空き家や空き店舗が増加しており、昼間でもシャッターが下りた店舗が目立ち、通りを行き交う人の姿は少ない。

本市の総合戦略では、若者や女性がやりがいを持ち、安定した生活を送ることができる雇用の場の創出や起業しやすい環境を整備するとともに、快適で利便性の高い居住環境を整備し、働きながら住み続けられる環境づくりを進めていくこと、及び歴史・文化資源だけでなく、地域の農産品や工業製品、景観、ひと、まちでの暮らし方・働き方などの多様な地域資源を活用してまちの魅力を発信するとともに、交流人口や継続的に地域にかかわる関係人口の創出・拡大などに取り組むことでまちの活力を高め、人の流れを作ることを目指している。

そのための施策として「地域産業の活性化」「駅周辺の活性化」「魅力の発信と関係・交流人口の拡大」等を掲げ、「つしまちあるきキャンペーン」「津島駅周辺まちづくり事業」その他の事業を総合戦略の一部として位置付けている。本事業では、後述する空き家・空き店舗の利活用及びリノベーション、賑わい創出事業、アンテナショップ事業等、天王通りにおける多角的アプローチによる日常的な賑わいの創出を目指す。

## 《事業の進捗状況》※主な事業を記載

①



《空き家・空き店舗・空き地利活用事業》 所管：産業振興課

### ①先進事例視察

新潟市の沼垂テラス商店街と古町商店街周辺の視察を行い、代表者から衰退した状態から様々な取り組みを経て再興した手法を確認した。

### ②空き家リノベーションワークショップ実施

沼垂テラス商店街の代表者を招いて3回ワークショップを行った。計28人の参加があり、商店街再生や空き家利活用の機運の醸成を図った。

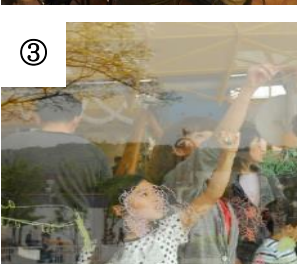
②



### ③つしまアートストリート実施

天王通り周辺の古民家や施設を展示会場とし、歩きながら作品を堪能するアート展を開催した。来場者自らがアート制作に参加できるワークショップも実施し、2日間で計900人が参加した。

③



### ④空き家所有者アンケート実施

空き家と思われる物件情報を収集整理し85件を選定した。所有者に郵送にて物件の利活用についてのアンケート調査を行い、32件から回答があった。このうち3件は物件の活用について前向きな回答が得られた。





《賑わい創出事業》 所管：産業振興課

天王通りや本町エリアを歩いて楽しむ「津島ウォーカブルストリート事業」を10月28日（土）、29日（日）に実施した。名鉄津島駅構内では「津島と毛織」と題し、街の様子や毛織業発展の歴史を振り返り、また親子連れ約100人が参加して「ガーランド※作り」を行った。天王通りでは店舗に協力を依頼し、シャッターアート制作を実施（約40人参加）し、今市場町の空き家に出店した店ではベンチづくり（5組参加）を行った。



※ガーランド



《ICT利活用事業》 所管：産業振興課

「賑わい創出事業」でのイベント実施に合わせて無線LANアクセスポイントを3箇所に設置（津島駅、天王通り、本町筋の中間）し、フリーWi-Fi機能を提供することで来街者の利便性向上を図った。のべ4,296回の接続があった。




《アンテナショップ事業》 所管：産業振興課

①事例調査


沼垂テラス商店街、古町商店街周辺より参考となる内容を整理した。市内外のクリエイターの商品展示やオリジナル商品の販売等、空間作りや品ぞろえが参考となった。また、古い建物をリノベーションし、カフェや貸しスペースを設けたアンテナショップも有効であった。

②栄地下街PRスペースの利用

UR都市機構の多目的PRスペースを利用し、津島市の魅力を発信する目的で2回、11月と2月（各1週間程度）、アンテナショップを開設した。ふるさと納税返礼品や名産品を展示・販売、試食や体験コーナーを設け、延べ約70品目、約67万円の売り上げがあった。

①  **《空き家・空き地情報プラットフォームの検討事業》** 所管：産業振興課

①事例調査  
 先進事例である岡崎市リノベーションまちづくり実行委員会、かけがわランドバンクの調査を行った。中心市街地の遊休不動産活用に取り組み、空き店舗や空きビルを行政や地域と連携して活用する民間組織の活動を確認。空き家活用の無料相談会や空きスペースにコワーキングスペース※を開設している。

②  **※コワーキングスペースとは、フリーランスやリモートワーカー、中小企業等が共有で利用できるオフィスのこと。**

②プラットフォーム設立準備  
 今年度はアンケートやワークショップの実施に合わせて人の掘り起こしに取り組んだ。これらにより、商店街再生や空き家に関心がある地元の方、不動産業者や建築士等の掘り起こしができた。

0

《KPI の状況》

指標名	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		2022	2023	2024	2025		
指標 1	エリアへの新規出店店舗数 (店)	0	0	2	4	6	初年度のため出店数はなし。
	実績値		0				
指標 2	エリアの来街者数 (人)	300	500	750	1,000	2,250	すべてのイベントが終了した平日 12 時間合計。イベント開催時には多くの来街者があり、継続することで増加していくと思われる。
	実績値		359				
指標 3	エリアが賑わってきていると回答した事業者の割合 (%)	0	5	10	20	35	賑わいを「感じる」「やや感じる」と回答した数が 20 件中 3 件だった。出店数とともに来街者も増えれば実感する方も増えると思われる。
	実績値		15				

《成果》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

建物所有者アンケートで、活用に前向きな回答もあることや、成功事例では、まずは空き家活用することから始めていることを地域の方と一緒に学んだことで、今後、本事業と相まって出店が増加していく機運が高まっている。

《事業の課題》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

事業の企画や運営には時間と労力が必要であるが、イベントを行えば一時的に来街者は増え、ウォーカブルな雰囲気にはなるが、恒常的な賑わいを取り戻すには商店街の方々の意識の変革も必要である。今後さらに官民一体で進めていく必要がある。



《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40点)	KPI 達成への貢献度	B	「まちの活力を高め、人の流れをつくる」という総合戦略のもと、駅周辺の活性化に向けた事業として概ね効果的な状況である。	B
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30点)	コスト効率	C	3年計画の初年度であり、成功事例を学ぶことや、シャッターアートなど、まずはやってみることから始める必要があったことから、それなりのコストがかかった。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	C	3年間の地方創生事業後も空き店舗への対応を継続していく必要があるため、この先、地元の情報に通じたプラットフォームの設立・運営が必要である。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	B		

《今後の展開》

歴史ある町家建築が数多く残る天王通り周辺エリアに日常的な賑わいを取り戻すことが本事業の目的であることから、地元商店街の理解と協力を得て店舗のシャッターを開け、イベントでの来街者の増加との相乗効果から賑わいの創出を目指す。また、これを持続可能なものとするため、店舗出店の助成金やサポート体制、プラットフォームの構築を確実なものとし、次世代に引き継げる仕組みを作り上げる。

担当部局： 建設産業部 / 担当課： 産業振興課